

# 鶏卵



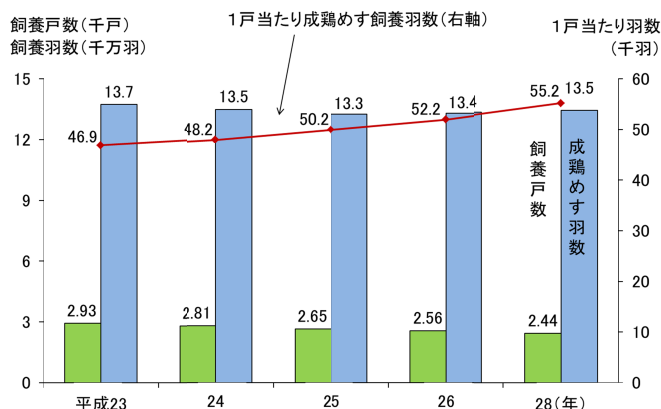
## ◆飼養動向

### 28年2月現在の採卵鶏飼養羽数、0.6%増

採卵鶏の飼養戸数は、小規模飼養者層を中心に、前回より120戸減少し、平成28年は2440戸（平成26年比4.7%減）となった。一方、飼養羽数は1億7335万羽（同0.6%増）となった。このうち、成鶏めす飼養羽数は、1億3457万羽（同0.8%増）とわずかに増加した。成鶏めすの飼養戸数および飼養羽数を飼養規模別に見ると、10万羽以上の階層において増加した一方、それ以外の規模の階層においては減少した。

この結果、1戸当たりの平均成鶏めす飼養羽数は3000羽増えて、5万5200羽（同5.7%増）となり、依然として大規模化が進んでいる（図1）。

図1 採卵鶏の飼養戸数および成鶏めす羽数



資料：農林水産省「畜産統計」、 「家畜の飼養動向」

注1：各年2月1日現在。

注2：成鶏めすとは、種鶏を除く6カ月齢以上のめすをいう。

注3：飼養戸数は、種鶏およびひな（6カ月齢未満）のみの飼養者および成鶏めす羽数1千羽未満の飼養者を除く。

注4：平成27年は世界農林業センサスの調査年のためデータなし。

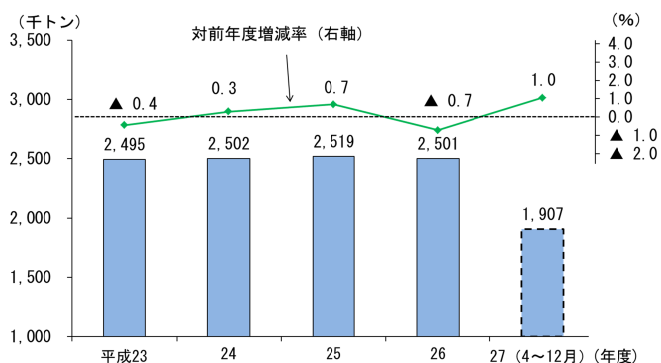
## ◆生産

### 27年度の生産量、1.0%増

鶏卵生産量は、東日本大震災発生の影響から回復した平成24、25年度と2年連続で前年度を上回った。26年度は、ひなえ付け羽数が増加したものの、増加傾向から一転し、250万1000トン（前年度比0.7%減）とわずかに下回った。

27年度（4月～12月）は、鶏卵卸売価格が好調に推移し、ひなえ付け羽数が増加したこともあり、190万7000トン（前年度比1.0%増）とわずかに増加した（図2）。

図2 鶏卵の生産量



資料：農林水産省「鶏卵流通統計」

注：平成28年1月以降のデータは未公表。

## ◆ 輸 入

### 27年度の輸入量、11.5%減

鶏卵の輸入量（殻付き換算ベース）は、国内需要量の3～5%程度を占めており、そのうちの約9割は加工原料用の粉卵である。

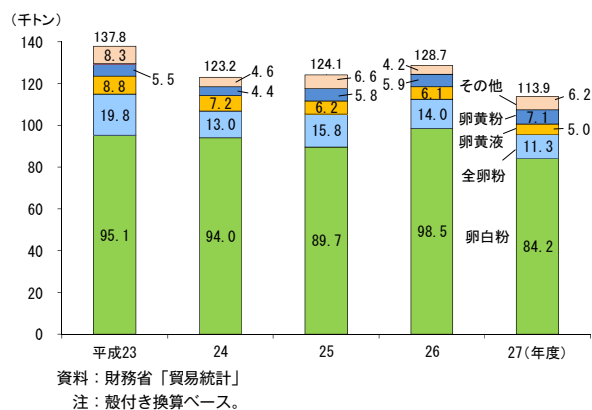
平成25年度は、12万4100トン（前年度比0.8%増）と、わずかに増加した。

26年度は、国内卸売価格が高水準で推移したことを受けて、需要者が輸入量を増やしたことなどにより12万8700トン（同3.7%増）と、やや増加した。

27年度は、米国における高病原性鳥インフルエンザの発生などもあり、11万3900トン（同11.5%減）と、かなり大きく減少した（図3）。

なお、27年度の主な輸入相手国は、オランダ、イタリア、インドであった。

図3 鶏卵の輸入量



## ◆ 消 費

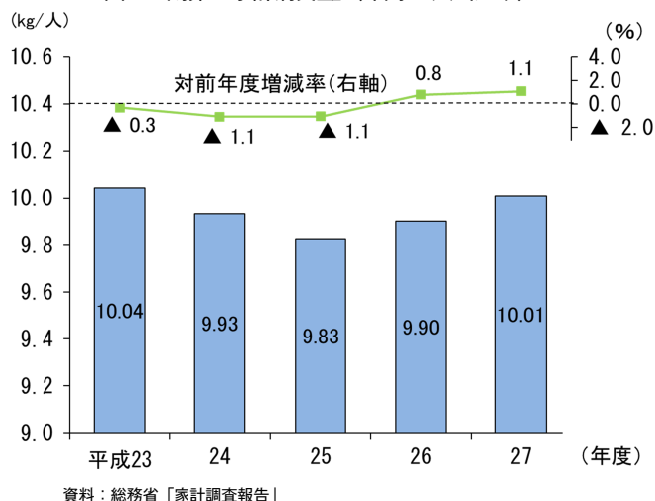
### 27年度の1人当たり家計消費量、1.1%増

家計消費量は、卸売価格が上昇したことなどにより減少傾向となり、平成25年度は年間1人当たり9.83キログラム（前年度比1.1%減）となった。

26年度は、前年度と比較して、夏場の気温の高い期間が短く、消費の落ち込みが少なかった影響もあり、同9.90キログラム（同0.8%増）と5年ぶりに増加したものの、3年連続で10キログラムを割り込んだ。

27年度は、28年1月以降に卸売価格が前年同月を下回ったことから消費量が増加し、同10.01キログラム（同1.1%増）と、4年ぶりに10キログラムを超えた（図4）。

図4 鶏卵の家計消費量（年間1人当たり）



## ◆卸売価格

## 27年度の卸売価格、11円高の1キログラム当たり227円

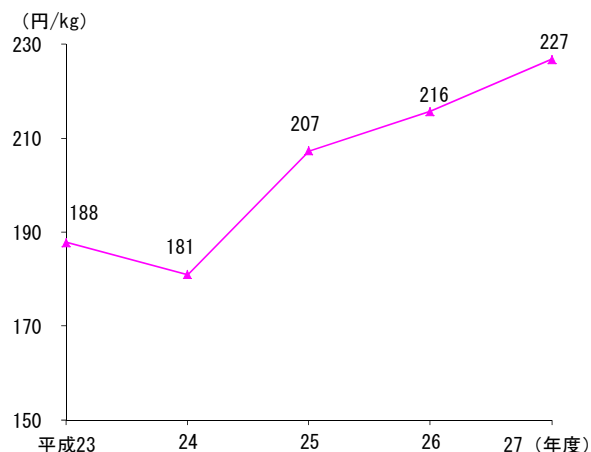
鶏卵卸売価格（東京全農系 M）は、平成 24 年度までは前年度を下回って推移した。

25年度は、生産面では夏場の猛暑の影響により卵重および産卵率の低下がみられたこと、需要面ではコンビニエンスストアのデザート需要が増加したことなどにより、下半期に相場が上昇したため、前年をかなり大きく上回る 1 キログラム当たり 207 円（前年度比 14.6%高）と、16 年度以来 9 年ぶりに 200 円台を記録した。

26年度は、生産量が減少した一方で、4 月以降の消費税増税により、支出実額が増加したことに加え、食料品価格が全般的に上昇する中、安価な鶏卵への代替需要が高まったことにより堅調に推移したことから、同 216 円（同 4.1%高）となった。

27年度は、輸入量が減少する一方で、加工・業務用を中心に需要が堅調に推移したことから、同 227 円（同 5.1%高）と 3 年連続で 200 円台を記録した（図 5）。

図 5 鶏卵の卸売価格（東京全農系M）



資料：JA 全農たまご株式会社「月別鶏卵相場」

注：消費税を含まない。